

やまがた 赤い羽根通信【第8号】

社会福祉法人山形県共同募金会 ☎023-622-5482



R8/3/25 発行

赤い羽根共同募金に関する キャラクターたち

今号の一面は緩い話題といたします。

【愛ちゃんと希望くん】

共同募金のキャラクターである「愛ちゃん」については、その活躍を度々お伝えしてきましたが、実は男の子である「希望くん」というキャラクターの存在をご存じない方も多いのではないのでしょうか。両キャラクターは昭和61年に公募により採用され誕生しました。「希望くん」は「愛ちゃん」の弟とのことだそうですが、実は県共募内でも一度も話題になったことがありません。



愛ちゃんと希望くん

【赤羽家のひとびと】

右のイラストは、共同募金のポスターやチラシでよくご覧になると思います。この6人は「赤羽家」三世帯同居の家族です。中央共募ホームページに掲載のプロフィールによると

白髪のおばあちゃんが安子さん(63歳)で、元校長先生。赤羽家の中心的存在で赤い羽根の助成を知り高齢者向けのさまざまな活動に参加しているとのこと。

おじいちゃんは心之助さん(71歳)で軽度の認知症を患うも介護を受けながらも週末は環境美化に勤しんでいるそうです。

車いすに座っているのは安子さん夫婦の長男の貢さん(38歳)で、事故をきっかけに通うようになった福祉施設で事務の仕事をしているそうです。

赤ちゃんを抱っこしているのは貢さんの奥さんのあかねさん(36歳)。フルタイムで働く保育士さんです。休日はこども食堂のスタッフをすることもあるとのこと。

子供たちは、お姉ちゃんがねねちゃん(4歳)、抱っこされているのがかいくん(1歳)で、お母さんと一緒に子育てサロンや子ども食堂に行ったりで、地域に友達がたくさんいるそうです。

猫の名前はフクで動物愛護NPOから引き取り貢さんの膝の上が大好きだそうです。

このように詳細にキャラ設定されていますが、定年延長の世の中に63歳でさまざまな高齢者向け事業に参加する人がいるものだろうか?というのか個人的な感想です。

赤羽家のメンバー



篠原欣子記念財団こども食堂 応援プログラム

篠原欣子さんは実業家で、創業 40 周年の際、社会福祉による社会貢献を目的に篠原欣子記念財団を設立しました。

毎年、中央募金会を通じて標記プログラムの原資が各都道府県共募に提供され、山形県分については、当募金会が募集・選定・助成等の事務を担っております。

プログラムの助成を受けるためには、こども食堂の運営のみならず、イベント開催や大型備品整備等が要件になっています。

今年も次表のとおり 8 団体に対して支援が決定しており、うち5団体からは活動報告書及び精算報告書が提出されております。

助成金の主な用途	
1	調理イベント(クリスマスケーキ・バレンタインチョコ)のチラシ作成、調理器具整備
2	シンク下を中心とした台所修繕、炊飯器、ガスコンロ整備
3	空気清浄機、スティック型掃除機整備(感染症予防、衛生対策)
4	炊飯器(3 台)の整備(それまでは、ボランティアが各家庭から持ち込んでいた)
5	食堂用照明器具、食堂内防火カーテンの整備等
6	暖簾、幟旗、フードプロセッサ、食品運搬用カート等整備
7	クリスマス会等に向けた消耗品、お菓子、食材の購入
8	餅つき用の杵(幼児用・小学生用、高齢者用)、炊飯器(餅保管用)の整備

※ 令和 7 年度事業の対象先

令和 7 年度は、西村山と庄内からのエントリーがありませんでしたので来年度以降の募集時には広報にご協力いただければ幸いです。

戸沢ふれあい食堂実行委員会から

戸沢ふれあい食堂実行委員会では、こどもから高齢者まで多世代が集い、食事やレクリエーションを通じた交流機会を確保しています。

近年では、自宅で餅を搗く家庭が減っていることに鑑み、こども達への食文化の伝承と餅搗き体験機会の提供を目的に、幼児用、子供用、指導する高齢者用の杵を整備するため篠原欣子記念財団こども食堂応援プログラムにエントリーしました。

餅搗きは皆の協力ができない作業であり、地域の絆を深めるのに効果的でした。

戸沢村では、こどもがいない地区もある

ことから、今後とも子どもから高齢者までの交流機会を設けていくよう努めていきたいと思えます。

今後は、搗いた餅で小正月の「なし団子飾り」をこども達が高齢者から教わる活動を予定しています。



川西町こども食堂 なかよしキッチンから

川西町こども食堂なかよしキッチンでは篠原財団の助成により炊飯器3台を整備しました。

この度、なかよしキッチンに参加している児童がキッズ店員となり、日頃の支援に感謝して地域の方々をおもてなしする「ありがとうカフェ」を実施したとのレポートをいただきましたのでご紹介します。

「ありがとうカフェ」は、2月22日(日)に開催し、当日は17名のキッズ店員(小学生)と、サポート役の高校生ボランティア3名、一般ボランティア6名で運営しました。

おもてなしするメニューは、飲み物(コーヒー、紅茶、カフェオレ、ジュース等)とスイーツ(コロコロドーナツ、蒸しパン)で、子ども達は「受付係」、「ウェイター係」、「調理係」に分かれて担当しました。中でも調理係はたいへんでしたが、それでも飲み物やスイーツをつくる仕事を効率よくこなしていました。



お客様は79名お出でいただき、一番遠くは当団体が助成を受けた一般社団法人の代表理事ご夫婦が天童市から訪問され、「自分達が支援した団体がどんな活動をしているのか実際に見てみたかった」と想いを述べられていました。

会場内には「活動紹介コーナー」をつくり、これまで支援して下さった団体や企業のお名前を掲示し、実際に寄付していただいた米や野菜、物資や玩具などの写真も掲示しました。寄付していただいた食材でつくった献立の写真も展示したので、食材を提供してくれた農家さんは「自分の野菜をこんなふう調理してくれたんだね」と喜んでくださいました。また、一般の地域の方々も展示写真を見ながら「お中元やお歳暮でいただいた調味料は使い切れなくて近所の人におすわけしていたけど、子ども食堂に寄付する方法もあるんだなあ」と仰っていました。

これからも感謝の気持ちを忘れることなく、地域で支え合っって子どもの居場所づくりを進めていきたいです。



JRA 馬主福祉財団 助成事業について

JRA 馬主福祉財団は、中央競馬の馬主の間で自分たちの手で、かつ目に見える形で社会福祉に貢献したいという気運の盛り上がりと、併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として、競馬賞金の一部を自主的に拠出することにより昭和 44 年 10 月に財団法人 中央競馬社会福祉財団(現 公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団)の設立が経緯となっています。

助成事業は、馬主協会のある地域では、馬主協会が、そうでない地域においては県共同募金会が馬主福祉財団の依頼を受け、団体からの受付・選定・申請事務支援等の事務を担っております。

主な対象事業は「福祉車両」「送迎用車両」「特殊浴槽等備品」「増改築」「各種修繕工事」と示されています。

助成対象となるのは社会福祉法人と NPO ですが、本会は、財団に依頼を受けホームページにアップし公募しています。

毎年、多くの法人からエントリーがあるものの馬主福祉財団から示される助成額は毎年 596 万円で、4 法人程度を選定していることから多くの法人を選外とせざるを得ません。

なお、助成金の交付決定の後には各法人と馬

主福祉財団との直接のやりとりとなりますが、気を付けてもらいたいのは、①代金は全額支払わずまずは自己負担額を支払う、②馬主福祉財団には①に伴う領収書を添えて事業完了報告を送付する、③馬主福祉財団から助成額が送付されるというステップとなりますので、予め請負業者にそのことを伝え・理解してもらう必要があるということです。しかしながら、残念なことに毎年のように「全額支払ってしまった」という連絡があるのが実態です。(ただし、申請時の総事業費から精算時の総事業費が下がった場合は当然助成額も減額となります)



車両・建物には馬主福祉財団のマークを入れます



【お知らせ】

鶴岡市募金委員会の山木会長の辞職に伴う本会理事、NHK 山形放送局長森評議員の人事異動に伴う辞職より本会の評議員はそれぞれ 1 名欠員の状態でしたが、3 月 23 日の評議員会で鶴岡市募金委員会の阿部真一会長が理事に、3 月 10 日の評議員選任・解任委員会において NHK 山形放送局の中谷文彦局長がそれぞれ選任されましたのでご報告いたします。